

## 美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議 第1回伊豆半島地域会議意見の反映状況

## 1 「命」を守り、日本一「安全・安心」な県土を築く

委員名	意見	対応案
工藤委員	観光面だけではなく、安全面（防災）を充実させることも人を呼び込むことに繋がる。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>津波を防ぐ施設整備をはじめ、耐震診断や耐震補強への助成によるホテル等の多数の者が利用する建築物の耐震化の促進、住民や来訪者が地域の避難場所等を容易に認識できる表示の普及などを計画に位置付け、安全・安心な県土づくりに最優先で取り組んでいく。</p> <p>また、平成26年に下田市で実施した住民・観光旅行者の避難対策モデル事業の効果を検証し、市町や観光協会と連携して半島全域への展開を図っていく。</p> <p>【1-1(1)ア◆大規模地震・津波災害や火山災害対策等の推進（P12）】</p>

## 2 誰もが活躍できる、安定した雇用を創出する

委員名	意見	対応案
土屋委員	賀茂地域のあらゆる産業で少しずつ隙間がある。その隙間を組み合わせて新たな業種・事業を作り上げていく発想が必要である。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>金融機関や産業支援機関との連携によるベンチャー企業の起業・事業化支援、農林漁業者と地域企業の連携による大規模な6次産業化、観光事業者と多様な業種の連携による観光産業の振興などを計画に位置づけ、地域の特徴を活かした新たな産業の創出に取り組んでいく。</p> <p>【2-1(1)エ◆新事業の創出及び中小企業の生産性向上の支援（P28）、2-2(2)イ◆6次産業化による高付加価値化の推進、ふじのくにブランドの推進、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興（P140）】</p>

委員名	意見	対応案
新田委員	伊豆にいても起業ができるようなシステムを、今の大人達がサポートしていくのが良いと考えている。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>金融機関や産業支援機関との連携によるベンチャー企業等の起業支援を計画に位置付けるとともに、ICTを活用したテレワーク等の仕事ができる環境や、サテライトオフィスやIT企業の立地を可能とする環境の整備を計画に位置付け、起業・就業環境の充実に取り組んでいく。</p> <p>【2-1(1)エ◆新事業の創出及び中小企業の生産性向上の支援(P28)、3-1(1)イ◆超高速ブロードバンドの整備・利活用推進(P51)、1 伊豆半島地域(3)イ◆移住・定住の促進(P142)】</p>
進士委員	農業を生き甲斐としている人は多いが、高齢化が厳しい。行政と農協が一体となり、ソフト面で後継者・担い手を増やしていく方策が必要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>先進的な農業経営者の下での実践研修等の実施による新農業人材の確保と育成等を計画に位置付けた。特に、農協と密に連携して、非農家出身で農業を志す若者を対象とした先進的な農業経営者の下での研修に取り組むなど、新規就農者の定着を図っていく。</p> <p>【2-1 イ◆将来にわたって持続可能な競争力のある農業構造の構築(P24)】</p>
常峰委員	雇用の増加のためには民間企業の活性化が特に重要。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>観光事業者だけでなく、農林水産業や商工業など多様な業種が連携した地域全体の取組、着地型・体験型観光を一元的に推進する共同事業体（DMO）の展開などによる観光産業の振興、中小企業の現場における経営改善活動をアドバイスする人材の養成・派遣などを計画に位置付け、地域企業の活性化による雇用の創出に取り組んでいく。</p> <p>【2-1(1)エ◆新事業の創出及び中小企業の生産性向上の支援(P28)、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</p>

委員名	意見	対応案
土屋委員	<p>安易な外部調達は、結果として働く場の消失につながるため、地域の供給力を衰退させるという認識を持って施策を進めることが重要。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む</p> <p>企業立地・事業継続メリットの明確化や、地元資源を活用した地場産業の振興、地域資源とICTの結合、戦略物流ビジョンの推進を施策の方向に掲げるとともに、伊豆半島地域域内総生産2.4兆円の目標を達成すべく、地域を挙げた取組を進めていく。</p> <p>【2-1(2)地域資源を活かした産業の創出・集積(P29)、1伊豆半島地域(2)目指す姿、成果指標及び視点(P140)】</p>
土屋委員	<p>若い人はできれば伊豆に就職したいという声がたくさんある。企業も潜在的に求人がある。ミスマッチを情報共有により解消することが重要。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>しずおか就職net（就職支援サイト）や静岡県地域企業情報誌により企業情報を提供するとともに、静岡U・Iターン就職サポートセンターでの首都圏大学生に対する企業情報の提供、県内学生に対して県内企業の魅力を伝える取組、県内企業とのマッチング機会の提供などを計画に位置づけ、恒常的な就職支援に取り組んでいく。</p> <p>【2-1(3)ア◆新卒者等と県内企業とのマッチングの促進(P35)、イ◆新卒者等の県内定着促進(P40)、3-3(2)エ◆学生の就職・進学活動への支援】</p>

委員名	意見	対応案
土屋委員	親世代が子どもの職業選択において価値観を押し付けているのではないかと。第3次産業が賀茂地域の経済を支えているのは事実である。いつまでも「ものづくり県静岡」ではなく、観光業のステータスを上げたらどうかと考えている。生まれ育った地域を自らが担うという意識を、若い人たちにどう訴えていくのが課題である。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>製造業を中心とした産業構造から多極的な産業構造への転換を図るため、新たなサービス産業の振興を図るとともに、女性も活躍できる新たな観光産業のビジネスモデルの構築、多様な業種の連携による地域全体で観光産業を発展させる取組などを計画に位置付けた。</p> <p>また、インターンシップや就職ガイダンスの実施により、高校生と保護者へ地域企業の魅力を紹介する取組、保護者を対象とした就活メールマガジン（県内企業情報等を掲載）の配信などを計画に位置付け、親世代に対する企業・就職等の情報提供の充実に努め、新卒者等の県内定着の促進を図っていく。</p>
鈴木委員	「地元を支えていこう」というリーダーを育成するため、高学歴・大手企業という価値観を問うていくべき。特に親世代がそのような価値観を持っており、その価値観を変えていく必要がある。	<p>【2-1(1)ウ◆地域資源を活かした新たなサービス産業の振興(P27)、イ◆新卒者等の県内定着促進(P40)、2-2(1)ア◆女性が活躍できる産業の振興(P43)、1伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</p>
工藤委員	就職活動において、学生は主にインターネットを活用して情報を入手している。県内学生対象の情報で公開されていないものが多いのではないかと。ホームページ上での情報公開の強化が必要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>しずおか就職net（就職支援サイト）による地域企業の定期的な情報配信を計画に位置付け、ホームページ上での情報提供に取り組んでいく。また、地域起業の見学バスツアーやインターンシップの促進を計画に位置付けるとともに、静岡県地域企業情報誌による企業情報の提供など、学生等に対して多くの企業情報が様々な手段で入手できるよう情報提供の強化に努めていく。</p> <p>【2-1(3)ア◆新卒者等と県内企業とのマッチングの促進(P35)、2-1(3)イ◆新卒者等の県内定着促進(P40)】</p>

委員名	意見	対応案
杉山委員	<p>定年退職者と企業のマッチングの取組はあるが、退職者を地域やNPOに紹介するまでに至っていない。上場企業であっても地元からの採用を重視しているが、大学や学生、商工団体に届いていない。情報の遮断が起きており、全てを網羅できる組織である県の役割が重要。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む</p> <p>しずおかジョブステーションにおける高齢者の特性に応じたきめ細かな就職支援や、企業を対象とする高年齢者活用支援施策の紹介セミナーの実施と効果検証を踏まえた改善による企業とのマッチング促進を計画に位置付け、施策の見直しを図りながら、退職者を地域企業と結びつける取組を進めていく。</p> <p>また、しずおか就職 net（就職支援サイト）による地域企業の定期的な情報配信を計画に位置付け、上場企業の本県での採用情報等を大学、学生等に対して広く提供していく。</p> <p>【2-1(3)ア◆高年齢者の就労促進(P39)、2-2(2)ア◆地域での活動の場の創出(P46)、2-1(3)イ◆新卒者等の県内定着促進(P40)】</p>

### 3 “ふじのくに” ならではの魅力ある暮らしを提供し、新しい人の流れをつくる

委員名	意見	対応案
川島委員	<p>観光資源が豊富で、生活環境も良いところに、健康な時期から移住・定住してもらい、高齢者の施設までの健康医療・介護の提供を目指す地域づくりはどうか。厚労省が掲げている CCRC を検討することも必要。</p>	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>アクティブシニアが退職後に地方で活動し、終末期に継続ケアを受けながら老後を過ごす「日本版CCRC」を地域の実情を踏まえながら検討していく旨を計画に位置づけた。</p> <p>また、伊豆の魅力を活かした二地域居住や、豊かな自然に抱かれた里山での暮らしなど、伊豆半島各地の特色に応じたライフスタイルの提案と、首都圏で開催する移住セミナー等による情報発信を計画に位置付け、健康な高齢者をはじめとする移住・定住の促進に取り組んでいく。</p> <p>【3-1(1)エ◆新たな受入の促進(P54)、1 伊豆半島地域(3)イ◆移住・定住の促進(P141)】</p>
清家委員	<p>伊豆地区の産業構造は、旅館・レジャー産業中心であり、中小零細事業所が非常に多く、労働者数も少しずつ減少しているが、雇用の確保、有能な人材の確保のためには、労働者が健康で安心して働ける職場環境の構築が重要。</p> <p>また、「働き方改革」という言葉が出てきており、正規・非正規の二者選択で物事を考えるより、多様な働き方が雇用の確保や安定的な雇用につながっていくと思っている。時間外労働の削減、年次有給休暇の取得促進を通して、ワーク・ライフ・バランスに地域として積極的に取り組み、働くという側面から伊豆地域が注目されるよう努める必要がある。</p>	<p>⇒御意見のとおり取り組む</p> <p>企業経営者を対象とした啓発等による企業風土改革や働き方の見直しの促進、ワーク・ライフ・バランスの意義や重要性の周知などを計画に位置付け、経営者・働く人双方の意識改革を促し、仕事中心のライフスタイルを見直しながら、誰もが健康でいきいきと働くことができる職場づくりを促進していく。</p> <p>【3-1(1)イ◆誰もがともにいきいきと働くことができる職場づくりと意識改革の促進(P57)】</p>

委員名	意見	対応案
土屋委員	ジオパークや反射炉など、伊豆が一つにならなければ対応できないというきっかけづくりが重要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>美しい伊豆創造センターと連携し、伊豆半島7市6町の広域的な産業振興、地域を担う人材育成等の事業推進支援や、伊豆半島ジオパーク、韮山反射炉などの世界水準の観光資源を活用し、市町の枠組みを超えて伊豆が一体となった魅力ある観光地づくりに取り組んでいく旨を計画に位置付けた。</p> <p>【5-2(1)イ◆市町の体制強化支援と市町との連携促進(P132)、3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62) 1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</p>
日吉委員	伊豆にはキンメダイ以外に伊勢海老、貝料理、定置網漁など漁業がたくさんある。地元でほとんど消費されず、大都市の市場に出荷されている。定置網が盛んであることを発信することが重要。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>観光業だけでなく水産業はじめ多様な業種が連携した取組、来訪者へ地域の魅力ある資源を活用した着地型・体験型の商品を提供する仕組みを構築する取組の支援を計画に位置付け、水産資源をはじめとする伊豆半島の魅力の発信と交流の拡大に取り組んでいく。</p> <p>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</p>
日吉委員	圏央道により商圈が広がった。去年の夏以降売り上げが伸びた。縦貫道も助かっているが、県外から来る人は海の見える道路を通りたい。圏央道を絡めた施策の検討が必要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>伊豆半島ジオパーク、韮山反射炉などの世界水準の観光資源を活用し、交通事業者等と連携した広域プロモーションを実施するとともに、テレビなどのマスメディア、ウェブサイト、SNSなどを活用した情報発信を強化していく旨を計画に位置付け、圏央道の開通を踏まえ、重点市場である関東県内の新たな市場拡大を図っていく。</p> <p>また、来訪者等が道路から海を望む景観を楽しむことができるよう景観伐採の仕組みを検討するなど、良好な景観の確保に取り組んでいく。</p> <p>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)、3-2(1)ア◆ふじのくに魅力情報発信の強化(P68)】</p>

委員名	意見	対応案
常峰委員	<p>景気は回復しているものの、お客の伸びが鈍い。外の地域にお客が流れている。この地域にうまく呼び込めていない。旅館経営者とお客を呼び込む方策も話し合っている。最終的には、交通アクセスの改善、オリンピックに向け増加してくる海外からの旅行者の呼び込み、既存の施策の実効性が問われている。</p>	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>東京オリンピック・パラリンピックを契機に、富士山静岡空港の就航先である中国、韓国、台湾をはじめ、欧米等や経済成長著しい東南アジア諸国からの誘客強化を施策の方向に位置付けるとともに、国際観光展や現地メディアを通じた情報発信、現地旅行会社による商品造成促進、交通結節点と観光地を結ぶ2次交通の利便性向上等の具体的取組を計画に位置付けた。</p> <p>【3-2(2)ア◆外国人観光客や留学生の呼び込み(P70)】</p>
佐藤委員	<p>伊豆全体で総合世界遺産に名乗り出るだけでも起爆剤になる。一年中様々なイベントを開催し、伊豆に多くの観光客を呼ぶなど、市町ごとではなく、伊豆あるいは富士山という切り口で実施する。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>美しい伊豆創造センターと連携し、伊豆半島ジオパーク、韮山反射炉等の世界水準の資源を磨き上げ、旅行商品の造成やスポーツと文化が連携したイベントの開催などを計画に位置付け、伊豆半島地域全体で魅力的な観光地づくりを推進していく。</p> <p>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)、◆賑わいを創出するイベントの展開(P67)、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</p>
佐藤委員	<p>伊豆には歴史、文化、自然、人的資源、ありとあらゆるものがある。伊東から下田まで来たが、道路沿いに雑草が生い茂っている。国立公園に相応しくない。世界から必ず伊豆に人が来る地域とするため、表情・姿をもう一度美しいものにする必要がある。</p>	<p>⇒御意見のとおり取り組む</p> <p>年間を通して良好な道路環境を保つことを目的に、伊東市と協働で道路の除草を県管理道路と市管理道路を一体的かつ持続的に実施するモデル事業を試行しており、成果を検証しながら、観光地やその周辺地域などへの適用を検討していく。また、住民や団体等が道路の清掃や美化活動に取り組む「しずおかアダプト・ロード・プログラム」の更なる普及を図るとともに、河川や海岸においても同様の取組を行うなど、市町や住民・団体等と連携して、国内外の人々を迎えるに相応しい美しい景観の創生に努めていく。</p>

委員名	意見	対応案
工藤委員	<p>日本大学国際関係学部の学生で、三島市のお洒落なカフェ、おいしいお店をピックアップしマップ作りをしている。観光客の増加に向けて、このような取組が重要。</p>	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>地元の人しか知らないようなスポットや歴史、人々の暮らし、文化に光を当て、これらの資源を着地型・体験型商品として提供することで、観光客の満足度を高め、リピーターを確保する取組を計画に位置付け、地域の魅力的な店舗を含め来訪者に地域魅力と触れ合う機会の拡充に努めていく。</p> <p><b>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)】</b></p>
三好委員	<p>美しい伊豆創造センターは、伊豆が一つになる最後のチャンスだと思っている。国内旅行のお客さんであっても、伊豆は知っているが、「伊豆のどこ」という話題になって初めて市町が出てくる。海外のお客さんも伊豆、熱海は分かると思うが、町は全然分からない。ジオパーク構想を含めて、美しい伊豆創造センターが中心となって、伊豆をブランド化して国内外に情報を発信することが重要。</p>	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>美しい伊豆創造センターとの連携による伊豆半島ジオパークや韮山反射炉など世界水準の観光資源を磨き上げ、着地型・体験型商品として提供する仕組みの広域プロモーションや海外プロモーション等の取組を計画に位置付け、美しい伊豆創造センターが中心となって取り組む、地域が一体となった伊豆ブランドの再構築を支援していく。</p> <p><b>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</b></p>
三好委員	<p>観光業に必要なのは、計画、感動、驚き、おもてなしの4つである。伊豆半島地域の地方創生の中に入れてもらえればと思っている。</p>	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>来訪者に「深い体験」や「新鮮な感動」を提供することで、満足度の向上やリピーターにつながる、多彩で魅力あふれる地域資源を活用した観光地づくりを推進するとともに、おもてなしを支える観光人材の育成を計画に位置付け、旅行者に感動を与え、誰もが安心、快適に旅行を楽しみ、再び訪れたい地域づくりに取り組んでいく。</p> <p><b>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)、3-2(1)イ◆おもてなしを支える観光人材の育成(P69)、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</b></p>

委員名	意見	対応案
飯倉委員	出て行った人がその先で、賀茂地域の良さを伝えられるような教育をしなければならない。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>富士山や伊豆半島ジオパーク等でのフィールドワークによる学術的な学びを実施する「地域学」の推進や、地域に根差した多様な体験教育活動の充実などを計画に位置付け、郷土愛を醸成する魅力ある教育環境の整備に取り組んでいく。</p> <p>また、子どもたちが地域の誇りや観光の意義を学ぶ「子ども観光大使」の取組への支援を計画に位置付けた。</p> <p><b>【3-3(1)ア◆多様な学習機会の提供(P77)、3-2(1)イ◆おもてなしを支える観光人材の育成(P69)】</b></p>
新田委員	伊豆市内の小中学生を対象とした子ども未来塾を開催しており、伊豆市の未来を発信できる人材の育成、魅力の発信による長期的な観光誘客を目的としている。学校では体験できないことを体験してもらい、子ども達が外に出たときに自分の地域を誇りに思ってもらうことが重要。	
新田委員	伊豆特産の白枇杷には価値があると考えて様々な取組をしている。このような農産物をはじめとした特産品は、観光客誘致や滞在時間を延ばすことにも活用できる。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>観光業だけでなく、地域の農林水産業や商工業などの多様な業種が連携し、来訪者へ地域の魅力ある資源を活用した着地型・体験型の商品を提供する仕組みを構築する取組の支援を計画に位置付け、農産物をはじめとする地域資源を活用した観光地づくりに取り組んでいく。</p> <p><b>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</b></p>
松原委員	自分たちの地域に自信を持っている人が少ない。伊豆地域は魅力がいっぱいであるが、ずっと住んでいるとその魅力に気づかない。観光資源というと特別なものを考えがちであるが、地元生活そのものが資源である。そういうものをPRすることが必要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>地元の人しか知らないような隠れたスポットや歴史、人々の暮らしや文化に光を当て、これらの資源を着地型・体験型商品として提供することで、観光客の満足度を高め、リピーターを確保する取組を計画に位置付け、ありのままの人々の暮らしや文化を体感する地域魅力ふれあい型観光の推進を図っていく。</p> <p><b>【3-2(1)ア◆世界水準の魅力を核とした観光地づくり(P62)、1 伊豆半島地域(3)ア◆地域資源を活かした観光産業の振興(P140)】</b></p>

委員名	意見	対応案
佐藤委員	海外から優秀な留学生・優秀な労働力を呼び込むことの検討が必要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>県内大学等で組織するふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じた留学生支援の一層の充実や、東南アジアをターゲットとして、県及び県内高等教育機関の情報発信を行っていく旨を計画に位置付け、海外の優秀な留学生・人材の呼び込みを図っていく。</p> <p>また、日本人も外国人も住みやすく活躍しやすい環境づくりに取り組んでいく旨を計画に位置付け、県と経済団体が協力して平成24年2月23日に策定した「外国人労働者の適正雇用と日本社会への適応を促進するための憲章」の普及と企業の実践の促進に努めていく。</p> <p><b>【3-2(2) イ◆留学生の受入体制の強化(P75)、ウ◆誰もが住みやすく活躍しやすい環境づくり(P76)】</b></p>
進士委員	保護者も含めて、農業の素晴らしさ、食の安全・安心の重要性を小・中学生に伝える教育が必要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む（計画に反映）</p> <p>遊休農地等を活用した農業体験活動を計画に位置付け、農業高校等が中心となって小・中学校、幼稚園、保育所の園児児童生徒と農業体験を実施していく。</p> <p>また、県民への食品表示に関する正しい知識の普及を計画に位置付け、安全で安心できる食品の提供を図っていく。</p> <p><b>【3-3(1) ア◆社会の第一線で活躍できる人材の育成(P79)、3-4(1) ア◆健康長寿日本一の推進(P89)】</b></p>

#### 4 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる

委員名	意見	対応案
加藤委員	<p>長泉町は、人口が増加している数少ない市町と言われているが、地元の間人は人気がある理由が分かっていない。住民目線の施策の充実が大切である。例えば、長泉町では高校生までは医療費無料など頑張っている。どこの市町でも同じサービスが受けられるような環境づくりが必要。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む</p> <p>県内市町の先進的な取組など、地域の特性や施策の実施状況などを調査・分析し、効果の高い施策を明らかにし、市町に提案するなど、支援の底上げを図っていく。</p>
新田委員	<p>観光客を対象にした出張エステの仕事は、夕食の前後や夜の短時間に限られる。スタッフの多くが主婦の方であり、エステの営業時間に柔軟に対応でき、土日も託児できる施設があれば短時間でも働くことができる。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>延長保育、一時預かり、病児保育など、市町の子ども子育て支援事業の着実な推進に対する支援を計画に位置付け、多様化する保育需要に対応したきめ細かなサービスが提供できるよう市町と連携して取り組んでいく。</p> <p><b>【4-4(2)ア◆多様な保育サービスの充実(P103)】</b></p>

## 5 時代にあった地域をつくり、地域と地域を連携する

委員名	意見	対応案
池田委員	<p>賀茂圏域だけで救急医療を担っていくのは難しい。どうしても伊豆市や伊豆の国市と協力しないと成り立たない。東海岸や西海岸などの分け方でエリアの中での医療を充実させる。既存道路を拡充して搬送時間を短縮する。ドクターヘリは夜間飛行の問題が整理できていないのでその点を含め、一地域だけではなく、周辺地域が協働していかなければ医療は成り立たないと思っている。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>二次医療圏ごとの各医療機能の将来の必要量を含めた地域医療構想の策定による、医療機能の分化と連携の適切な推進を計画に位置づけた。今年度に取り組む地域医療構想の策定に当たっては、必要に応じ、構想区域の範囲や構想区域間の連携について検討していく。</p> <p>また、ドクターヘリの夜間運行の実現に向け、騒音問題や環境への配慮を必要とする離着陸場候補地の選定などの課題を踏まえ、引き続き、検討を行うなど、救急医療体制の充実を図っていく。</p> <p><b>【5-1(1)ウ◆医療と介護の総合確保・在宅医療等の強化（P119）】</b></p>
工藤委員	<p>毎年、学生の企画により、障害のある人と一緒に大学の講義を受けるイベントを開催している。健常者と特別な支援が必要な人が一緒に何かを行う場の提供など、皆が満足する地域づくりが必要。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>誰もが参加できる文化活動やスポーツイベント等を通じた県民相互の交流促進を計画に位置付け、子どもや女性、高齢者、障害のある人など、全ての県民が楽しみながらつながることの出来る機会の創出に努めていく。</p> <p><b>【5-1(1)イ◆県民交流の促進(P117)】</b></p>
田中委員	<p>中心市街地に魅力があることを外に向けて発信できていない。振興策はあるが、お金がないために物事が実現しない。地方創生の取組の中で支援していくことが必要。</p>	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む</p> <p>市街地の魅力ある商業環境づくりを推進するため、地域の特色を活かした商店街等の活性化に取り組む市町に対する助成等の支援を行うとともに、各市町が推進する総合戦略の実効性を高めるため、地域の創意工夫による自由な取組を支援する新型交付金制度の創設を国等に要望していく。</p>

委員名	意見	対応案
田中委員	伊豆は一つという目標は素晴らしいが、各市町の努力が大前提である。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>美しい伊豆創造センターが実施する産業振興・地域を担う人材育成等の広域的取組に協力していく旨を計画に位置付け、7市6町首長会議が策定した伊豆半島グランドデザインの実現に向けた主体的取組を支援していく。</p> <p>また、広域連携等を推進することにより、高度化・多様化する行政需要に的確に対応できる行政運営の推進を施策の方向に位置付け、行政経営研究会において市町間や県と市町、民間事業者等との連携手法の検討等を行い、可能な取組から具現化していく。</p> <p>【5-2(1)イ◆市町の体制強化支援と市町との連携促進（P132）、5-2(2)ア◆行政経営研究会における検討を踏まえた連携の推進(P133)】</p>
田中委員	地方創生では公共工事は対象外と聞いているが、田舎ほど基盤整備を進める必要がある。	<p>⇒御意見のとおり取り組む</p> <p>中山間地域の魅力を活かした地方創生の実現に向け、その課題となる道路網の整備や防災・減災対策、公共交通の維持・確保など、地域の実態に即した重点的かつ効果的な社会資本整備を推進していく。</p>
藤原委員	伊豆縦貫自動車道については、整備後の活用を考えることが最も重要。	<p>⇒御意見の趣旨を踏まえ取り組む（計画に反映）</p> <p>美しい伊豆創造センターと連携した取組を推進する旨を計画に掲げ、命の道としての伊豆縦貫自動車道の整備を最優先に、肋骨道路等の整備を進め、東名高速道路や新東名高速道路との接続性の向上、域内交流の拡大や円滑化、都市機能・医療機能等のネットワーク化など、伊豆縦貫道の整備を見据えた伊豆半島グランドデザインに掲げる取組の促進を図っていく。</p> <p>【5-2(1)イ◆市町の体制強化支援と市町との連携促進（P132）】</p>
杉山委員	企業・団体・行政はそれぞれ素晴らしい取組をしているが、各々の機関をつなぎ、コーディネートしていく機能が必要。	<p>⇒御意見のとおり取り組む</p> <p>産学官金労言等の代表者で組織する県民会議、5圏域ごとの地域会議など、オール静岡で地方創生を検討・推進する体制を構築するとともに、PDCAサイクルによる毎年度の施策の検証・改善徹底し、県民会議、地域会議に参画する各関係機関の連携を図りながら施策の推進を図っていく。</p>